

2026年3月期 第2四半期 決算説明資料

(2025年4月1日～2025年9月30日)

2025年11月11日

ジーエルテクノホールディングス株式会社

東証STD 255A

01. 事業概要	… P. 3
02. エグゼクティブサマリー	… P. 6
03. 決算概要（2026年3月期 第2四半期）	… P. 9
連結	… P. 9
セグメント別	… P. 11
04. 業績・配当予想（2026年3月期）	… P. 23
05. APPENDIX	… P. 28

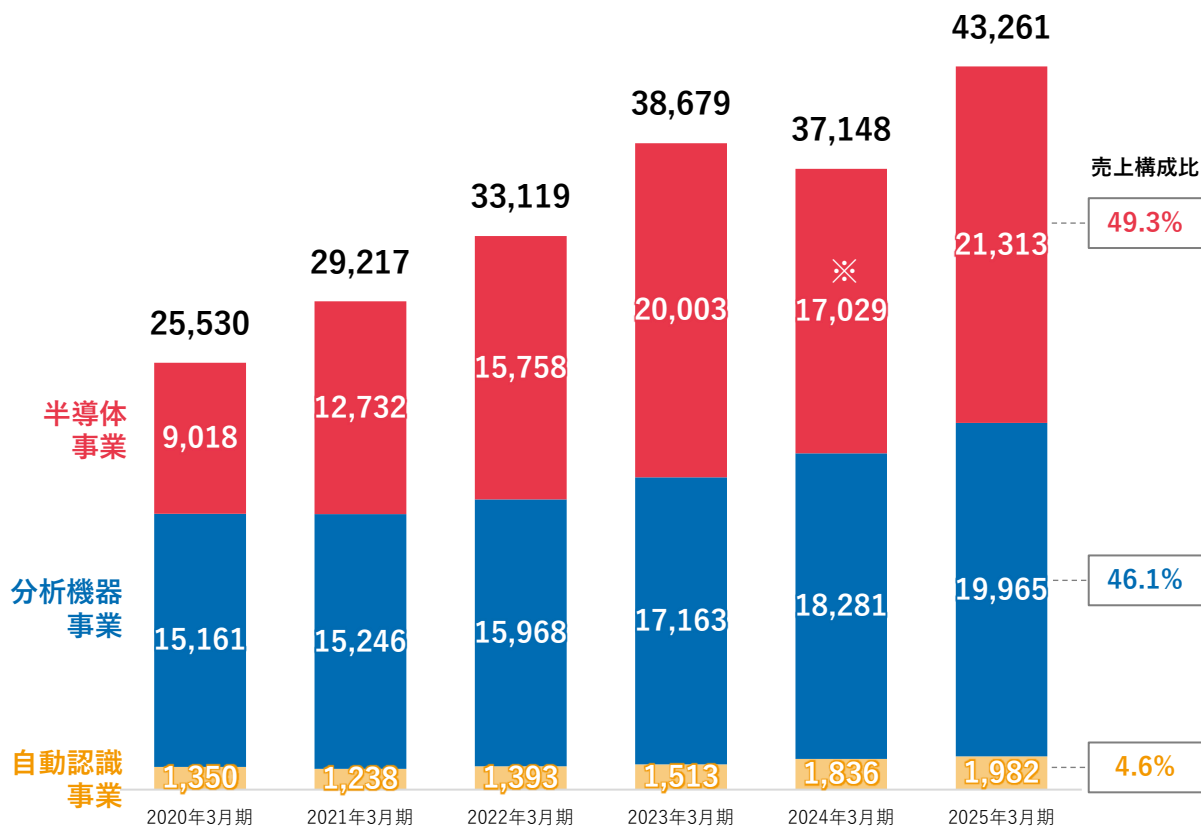
01. 事業概要

社会を支える3つの事業で築く堅実な成長基盤と売上・利益成長

セグメント別【売上高】推移

単位：百万円

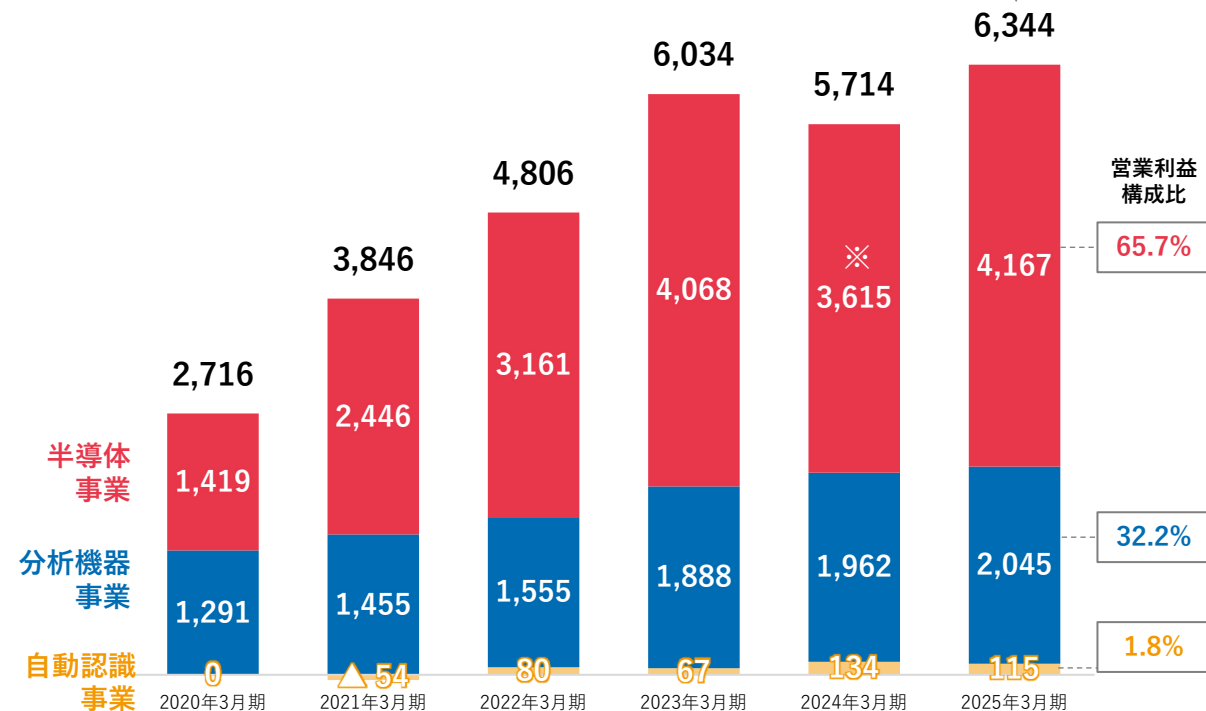
2024年10月
ジエルトテクノホールディングス設立



セグメント別【営業利益】推移

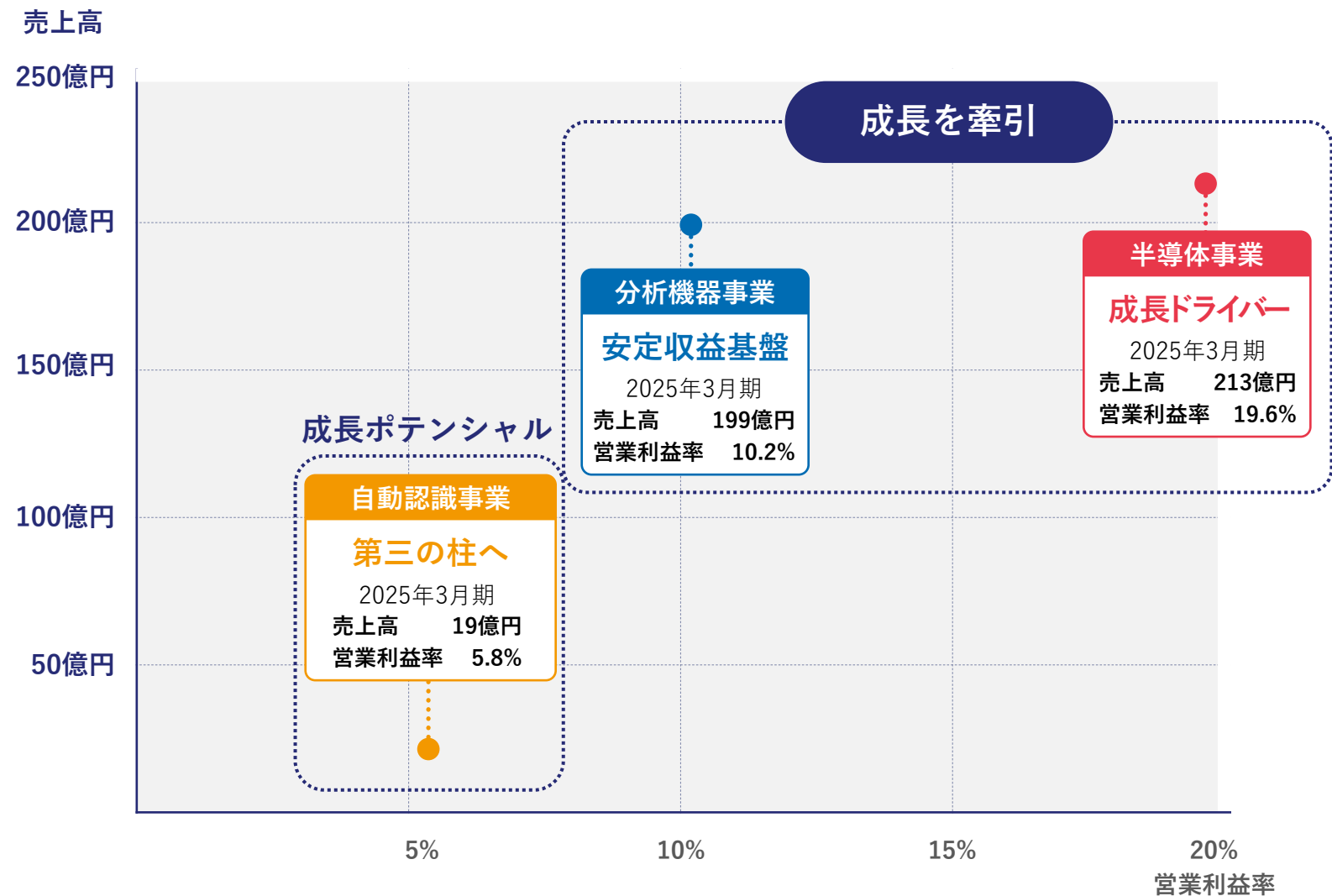
単位：百万円

2024年10月
ジエルトテクノホールディングス設立



※ 2024年3月期 半導体事業売上高は、パソコンやスマートフォン向け需要の減退に伴うメモリ在庫の停滞の影響で減収減益

“安定の分析機器事業”と“成長の半導体事業”のダブルエンジンで着実な収益拡大を目指す



分析機器事業

ジーエルサイエンス株式会社

分析装置や、その装置に欠かせないカラムなど各種消耗品の企画、開発、生産、販売、サポートまでを一貫対応

Point 景気の波に左右されにくく堅実に成長

半導体事業

テクノクォーツ株式会社

半導体製造装置用の高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツを主力とした半導体関連製品の製造・販売

Point 半導体製造装置の稼働量と急伸を背景に大きく成長

自動認識事業

ジーエルソリューションズ株式会社

ICタグの情報を非接触で読み書きする「自動認識技術(RFID)」のパイオニア企業として、関連製品を製造・販売

Point IoTが各分野に浸透していく中でニーズが拡大

02. エグゼクティブサマリー

2026年3月期 第2四半期

増収・減益

売上高

21,383 百万円
〔 前年同期比 +8.0% 〕

半導体事業が売上を牽引し、前年同期比増収

営業利益

2,846 百万円
〔 前年同期比 ▲1.7% 〕

前年度における半導体事業の棚卸資産計上基準の変更による影響のほか、
プロダクトミックスの悪化や物価上昇等によるコスト増も重なり、
前年同期比減益

2026年3月期 業績予想及び配当予想

通期業績・配当予想は前回発表時から変更はなく、
前期比増収・増益・増配の見込み

売上高

44,700 百万円
〔 前期比 +3.3% 〕

営業利益

6,680 百万円
〔 前期比 +5.3% 〕

配当予想

111 円
〔 前期比 +4円 〕

TOPICS

分析機器事業にてHPLCカラムの新製品をリリース



ターゲット
市場



製薬



化学工業

✓ 世界最高水準のHPLCカラム
～耐アルカリの限界に挑戦～

✓ 独自技術×多層展開での
収益基盤の強化

✓ 当製品を起点に、
最適な分析ソリューションを提案

分析機器事業

増収・減益

- ✓ 売上高は自社装置の落ち込みを他社製品の販売でカバーし微増
- ✓ 営業利益は自社製品の売上比率の低下等の影響により減益

売上高

8,989 百万円

〔 前年同期比 +0.7% 〕

営業利益

643 百万円

〔 前年同期比 ▲11.6% 〕

半導体事業

増収・増益

- ✓ 豊富な受注残高と工場高稼働率を背景に売上は伸長
- ✓ 前年度の棚卸資産計上基準の変更や物価高騰の影響があったものの、増益

売上高

11,474 百万円

〔 前年同期比 +15.0% 〕

営業利益

2,162 百万円

〔 前年同期比 +2.6% 〕

自動認識事業

増収・減益

- ✓ 化学物質管理および物品管理関連システムの受注が好調
- ✓ 低利益率案件、人材投資増加の影響で減益

売上高

919 百万円

〔 前年同期比 +2.7% 〕

営業利益

25 百万円

〔 前年同期比 ▲56.4% 〕

03. 決算概要（連結）

2026年3月期 第2四半期

増収・減益

- 売上高は、主に半導体事業の豊富な受注残高と工場の高稼働率が貢献し、前年同期比8.0%の増収
- 営業利益は、前年度における半導体事業の棚卸資産計上基準の変更による影響のほか、プロダクトミックスの悪化や物価上昇等のコスト増も重なり、前年同期比1.7%の減益

単位：百万円	2025年3月期 第2四半期		2026年3月期 第2四半期		前年同期比	
	実績	売上比率	実績	売上比率	増減率	増減額
売上高	19,796	-	21,383	-	+ 8.0%	+ 1,587
売上原価	12,713	64.2%	14,049	65.7%	+ 10.5%	+ 1,336
売上総利益	7,082	35.8%	7,333	34.3%	+ 3.5%	+ 250
販管費	4,187	21.2%	4,487	21.0%	+ 7.2%	+ 299
営業利益	2,895	14.6%	2,846	13.3%	▲1.7%	▲48
経常利益	2,871	14.5%	3,225	15.1%	+ 12.3%	+ 354
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,411 <small>※1</small>	7.1%	2,160	10.1%	+ 53.0%	+ 748

※1 経営統合前の上期は一部が非支配株主に帰属

03. 決算概要（セグメント別）

2026年3月期 第2四半期

増収・減益

- 売上高は、自社装置の落ち込みを他社製品の販売でカバーし前年同期比0.7%の増収
- 営業利益は、自社製品の売上比率が低下したことによる影響のほか、新生産棟の竣工後の設備移設等の費用計上もあり、前年同期比11.6%の減益

売上高

8,926
百万円

+0.7%

8,989
百万円

2025年3月期
第2四半期

2026年3月期
第2四半期

営業利益（率）

8.2%

7.2%

728
百万円

▲11.6%

643
百万円

2025年3月期
第2四半期

2026年3月期
第2四半期

要因・その他

国内 売上高比率 75.3%

装置類： 自社装置の売上が軟調だった一方で、PFAS分析用等の質量分析計の販売が好調

消耗品： 幅広い製品群が好調。液体クロマトグラフ用カラムだけでなく、固相抽出カートリッジ、ガスクロマトグラフ用部品類なども好調

海外 売上高比率 24.7%

- 主力製品である液体クロマトグラフ用カラムを中心に自社製品の拡販活動を展開するも、**中国経済の停滞及び北米における前年同期の特需の反動が影響**

経済の不透明感が続いている中国、及び、前年同期の特需の反動が影響した北米が低調ながらも国内、海外ともに売上高は微増

	単位：百万円	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比		2026年3月期 第2四半期 構成比
				増減率	増減額	
国内		6,736	6,769	+0.5%	+32	75.3%
海外		2,189	2,220	+1.4%	+30	24.7%
北米		288	253	▲11.9%	▲34	2.8%
アジア		1,400	1,388	▲0.9%	▲12	15.4%
その他		501	578	+15.4%	+76	6.4%
合計（国内+海外）		8,926	8,989	+0.7%	+62	100.0%

※ 米国関税の影響については、こちらのリリースをご参照ください。

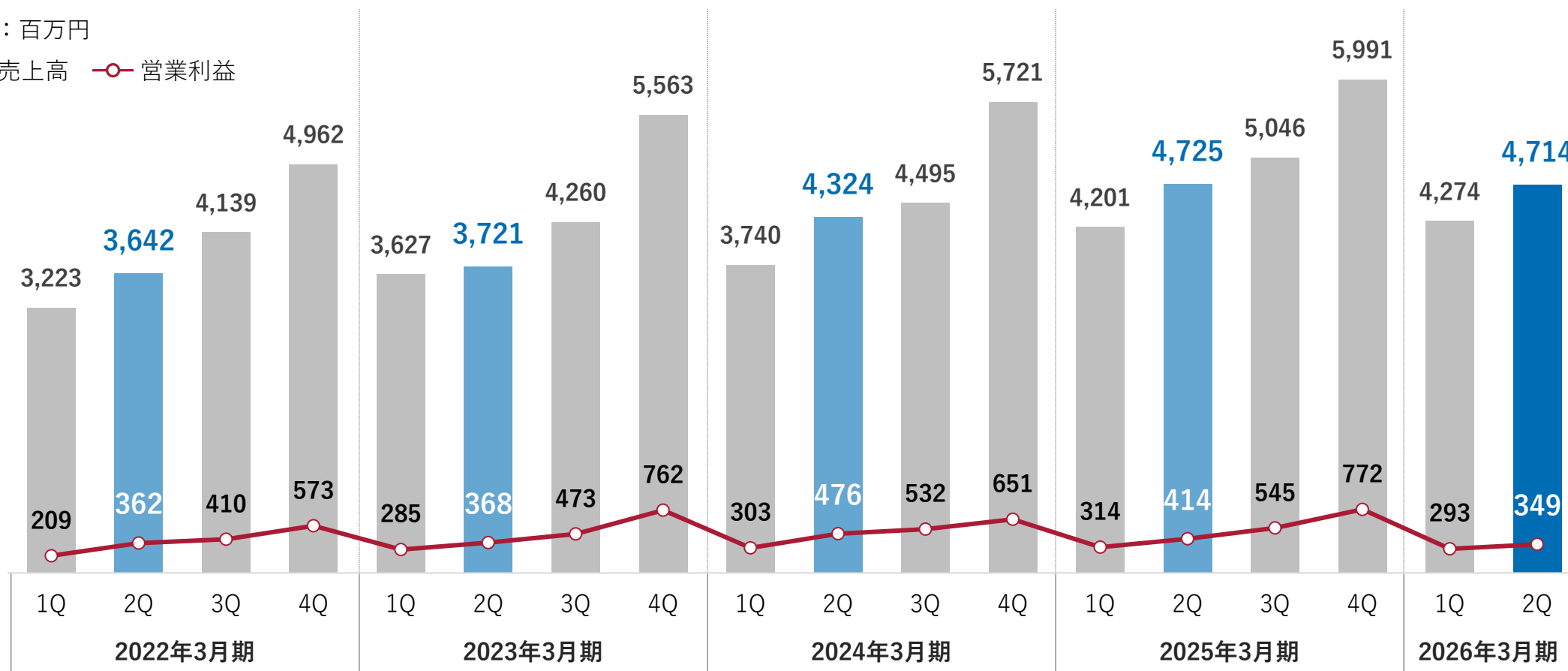
https://www.gltechno.co.jp/ir/library/haggb00000003vs-att/20250430_1.pdf

国内販売の売上計上タイミングが期末に集中するため、下期偏重の傾向

売上は前2Qとほぼ横ばいである一方、自社装置の売上が軟調であったことや、コスト増等の影響により、営業利益は減益

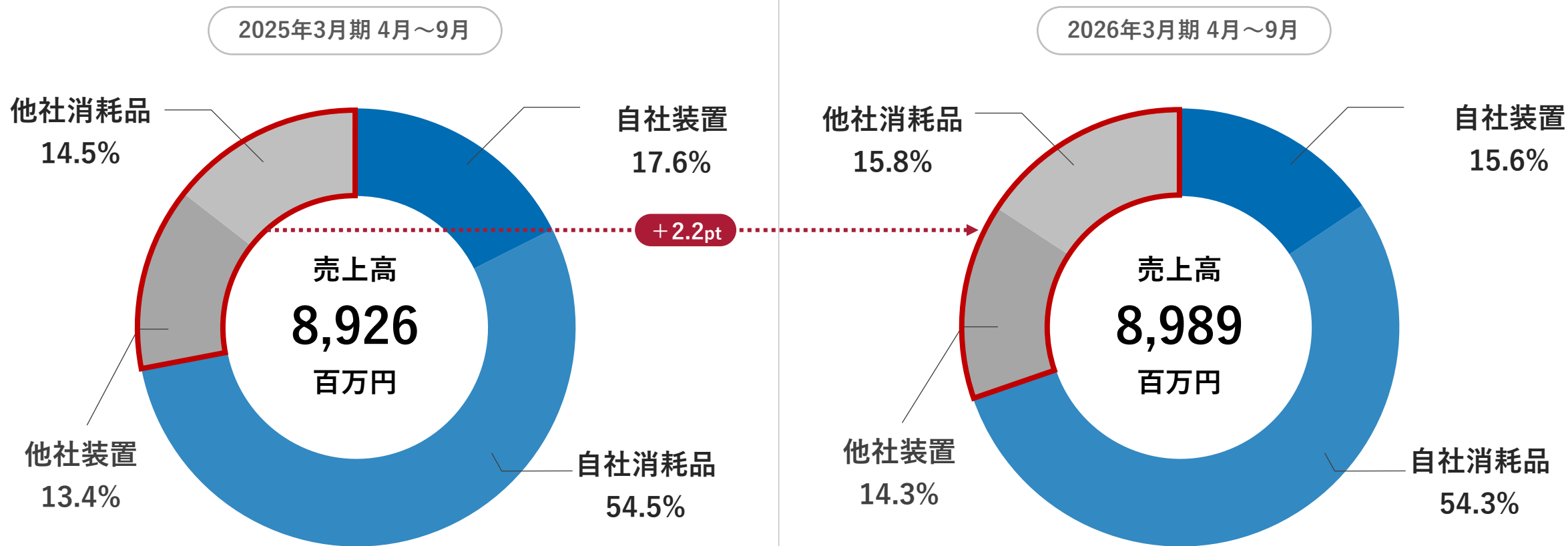
単位：百万円

■ 売上高 ● 営業利益



他社装置・他社消耗品の売上比率が前年同期比で微増

他社装置の販売を自社消耗品提案の好機と捉え、引き続きクロスセルの強化を図る



自社消耗品の新製品として、HPLCカラム「Inertsil Hybrid-C18」をリリース 製薬市場・化学工業分野での分析ニーズを捉え、シェア拡大と収益基盤の強化を図る

Inertsil Hybrid-C18



ターゲット
市場



製薬



化学工業

✓ 世界最高水準のHPLCカラム～耐アルカリの限界に挑戦～

40年にわたる合成技術を基盤に独自改良を施し、
世界最高水準の耐アルカリ性・安定性を備えたHPLCカラムを開発
従来困難だった強アルカリ・高温条件下での分析を可能とし、
バイオ医薬品・化学工業分野を中心に新市場の開拓を目指す

✓ 独自技術×多層展開での収益基盤の強化

従来品の上位モデルとして、**既存顧客のアップセルと海外展開**を推進
また、**模倣困難な独自技術**を活かし、OEM展開も期待
自社販売とOEM展開の両輪で、収益基盤の強化を図る

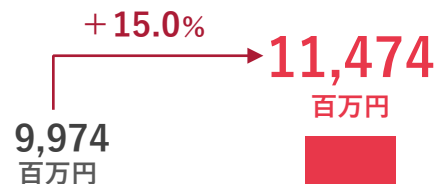
✓ 当製品を起点に、最適な分析ソリューションを提案

自社開発製品を核に、**約40,000点**の商材を自在に組み合わせ、
分析目的に応じた最適なソリューションを提案
他社に無い総合提案力で、市場シェア拡大を図る

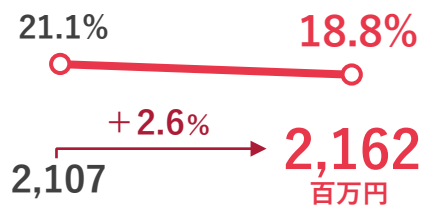
増収・増益

- 売上高は、豊富な受注残高と工場の高稼働率を背景に、前年同期比15.0%の増収
- 営業利益は、前年度における半導体事業の棚卸資産計上基準の変更や、物価高によるコスト増の影響があり、営業利益率としては低下したものの、増収効果により前年同期比2.6%の増益

売上高

2025年3月期
第2四半期2026年3月期
第2四半期

営業利益 (率)

2025年3月期
第2四半期2026年3月期
第2四半期

要因・その他

<需要拡大>

- 生成AI関連製品の需要が拡大している一方で、パソコンやスマートフォン、自動運转向けの需要は依然として低調

⇒半導体市場全体の回復は2026年以降の見込み

<需要拡大への対応>

- 高付加価値製品**の開発と拡販によるマーケットの拡大
- 国内外での**増産体制**構築のための準備

海外売上高の伸びが大きく貢献、売上構成比では海外が6割以上を占める

単位：百万円	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比		2026年3月期 第2四半期 構成比
			増減率	増減額	
国内	4,198	4,259	+1.4%	+60	37.1%
海外	5,775	7,215	+24.9%	+1,439	62.9%
北米	419	530	+26.5%	+111	4.6%
アジア	5,345	6,661	+24.6%	+1,315	58.1%
その他	10	23	+115.3%	+12	0.2%
合計（国内+海外）	9,974	11,474	+15.0%	+1,500	100.0%

※ 米国関税の影響については、こちらのリリースをご参照ください。

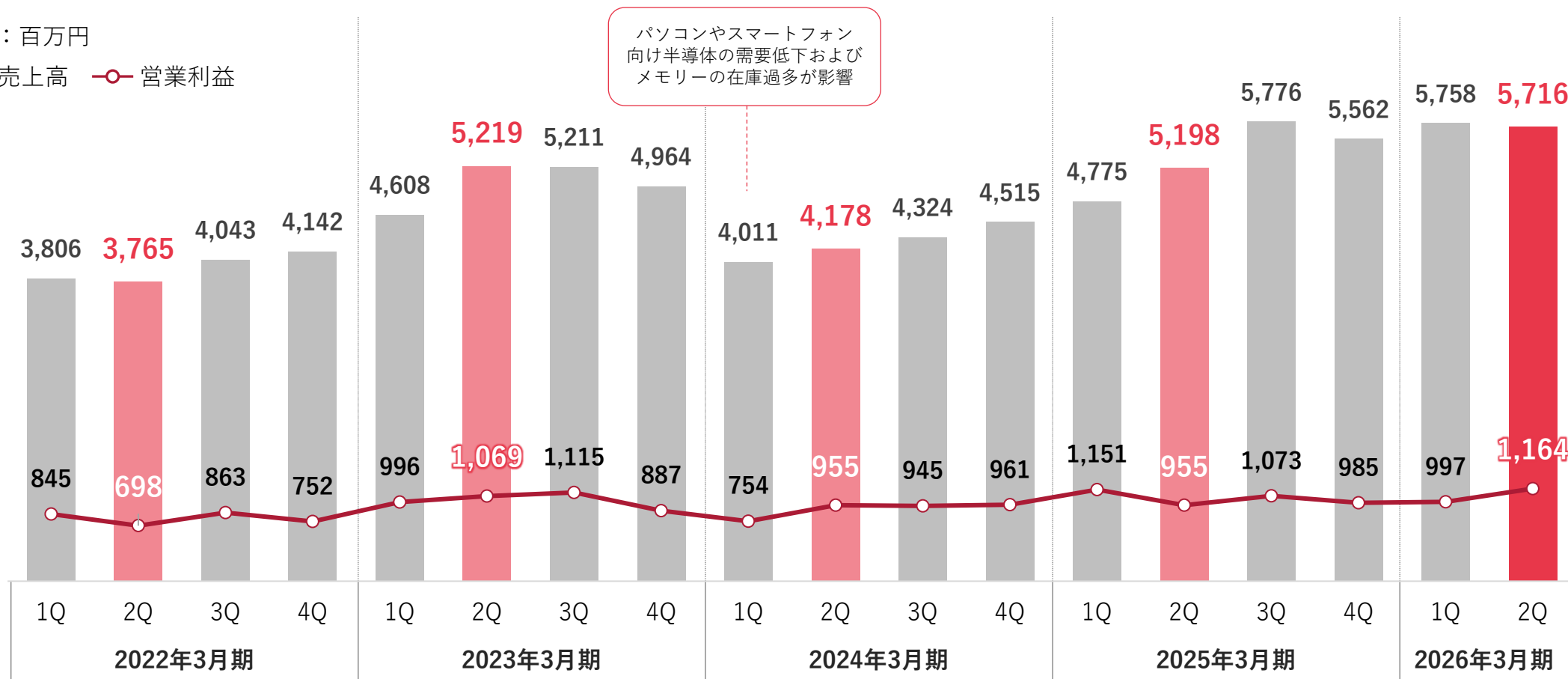
https://www.gltechno.co.jp/ir/library/haghgb00000003vs-att/20250430_1.pdf

これまでに積み上げた受注残高を背景に、売上高は好調を維持

当2Qは、米国の通商政策に起因する物流価格等の混乱が一部解消したほか、中国工場における稼働日数が1Qよりも増加したことで、営業利益率が改善

単位：百万円

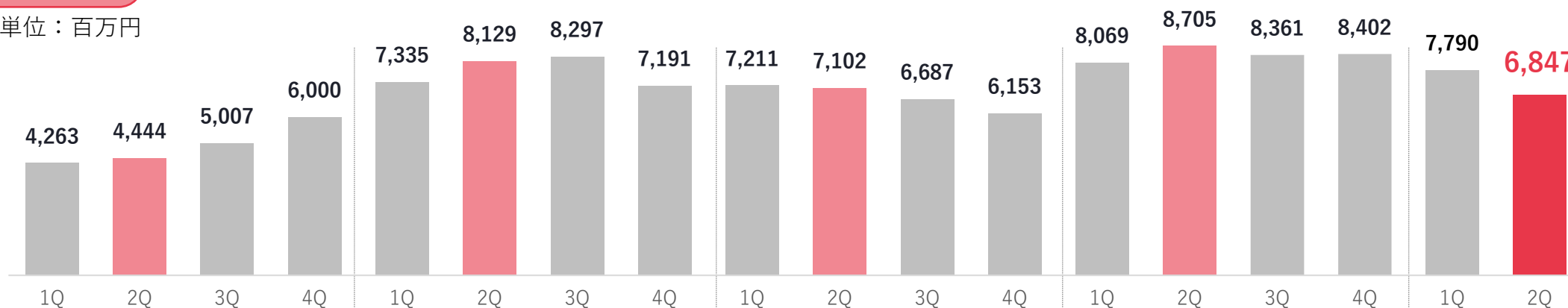
■ 売上高 ○ 営業利益



半導体市況の回復が遅れている影響を受け、受注残は通常の水準に近づく

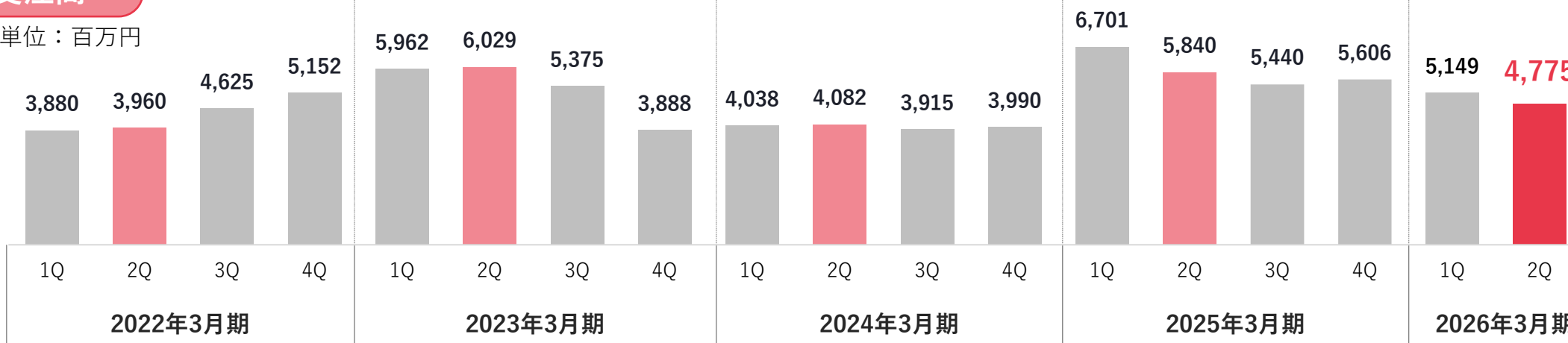
受注残

単位：百万円



受注高

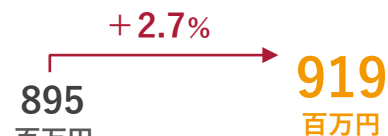
単位：百万円



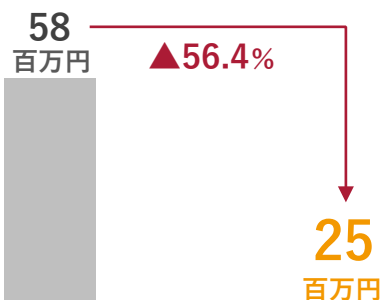
増収・減益

- 売上高は、化学物質総合管理システムや特定顧客向けの物品管理用UHFシステムなどの導入・販売が順調に進み前年同期比2.7%の増収
- 営業利益は、利益率の低い案件が多かったことに加え、成長を見据えた人材投資増の影響で減益

売上高

2025年3月期
第2四半期2026年3月期
第2四半期

営業利益 (率)

2025年3月期
第2四半期2026年3月期
第2四半期

要因・その他

<増収>

- 機器組込製品／完成系製品
住居関連施設やビル施設向けの需要減少が続き、伸び悩み
- 自動認識用その他
各種システム案件の他、住居向け特注ICタグ販売も好調に推移

<減益>

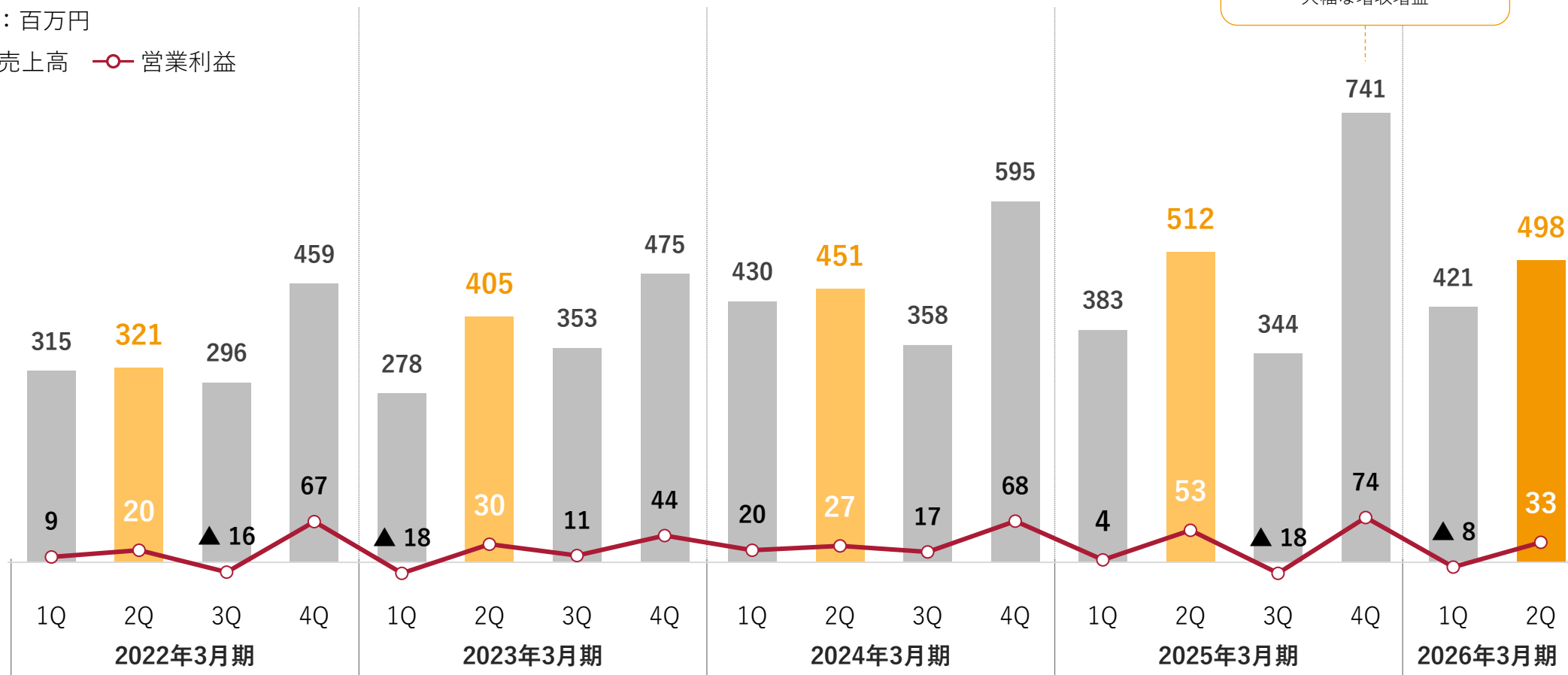
- 利益率の低い案件が多かったことに加えて、将来の事業拡大を見据えた人材面への投資増が影響

低利益率案件増・人材投資等の影響で営業利益は前年同期比減益となったものの、売上は堅調に推移
受注は期末に偏りやすく、下期偏重の推移

単位：百万円

■ 売上高 ○ 営業利益

期末に受注が集中したこと、
大型案件の受注により、
大幅な増収増益



04. 業績・配当予想

2026年3月期

通期業績予想は前回発表時から変更はなく、 前期比増収・増益の見込み

単位：百万円	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想※	前期比	
			増減率	増減額
売上高	43,261	44,700	+ 3.3%	+ 1,438
営業利益	6,344	6,680	+ 5.3%	+ 335
営業利益率	14.7%	14.9%	-	+0.2pt
経常利益	6,626	6,760	+ 2.0%	+ 133
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,064 ※1	4,810 ※2	+ 18.3%	+ 745
年間配当（円）	107	111	+ 3.7%	+4

※1 経営統合前の上期は一部が非支配株主に帰属

※2 通期で100%が親会社に帰属

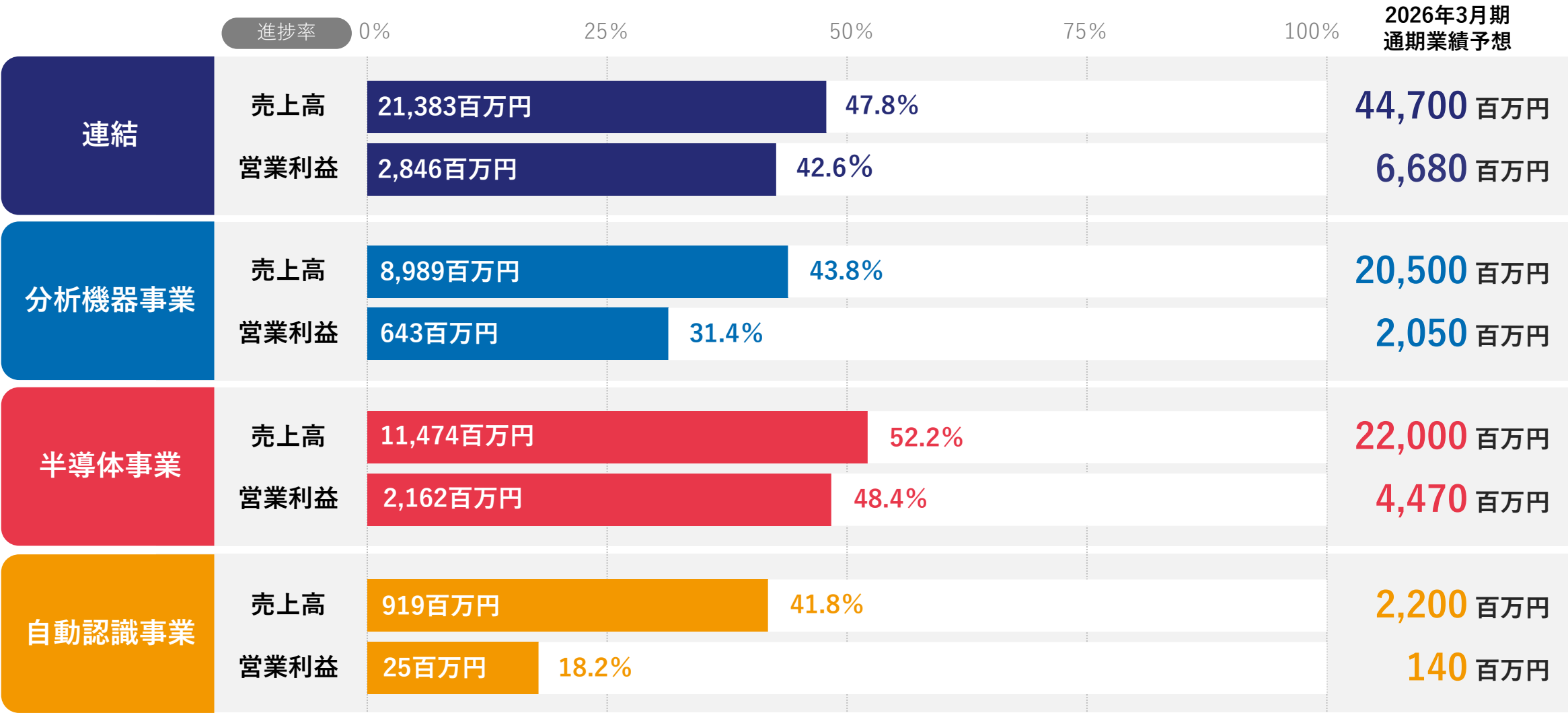
※ 想定為替レート：1米ドル＝¥150

※ 米国関税の影響については、こちらのリリースをご参照ください。

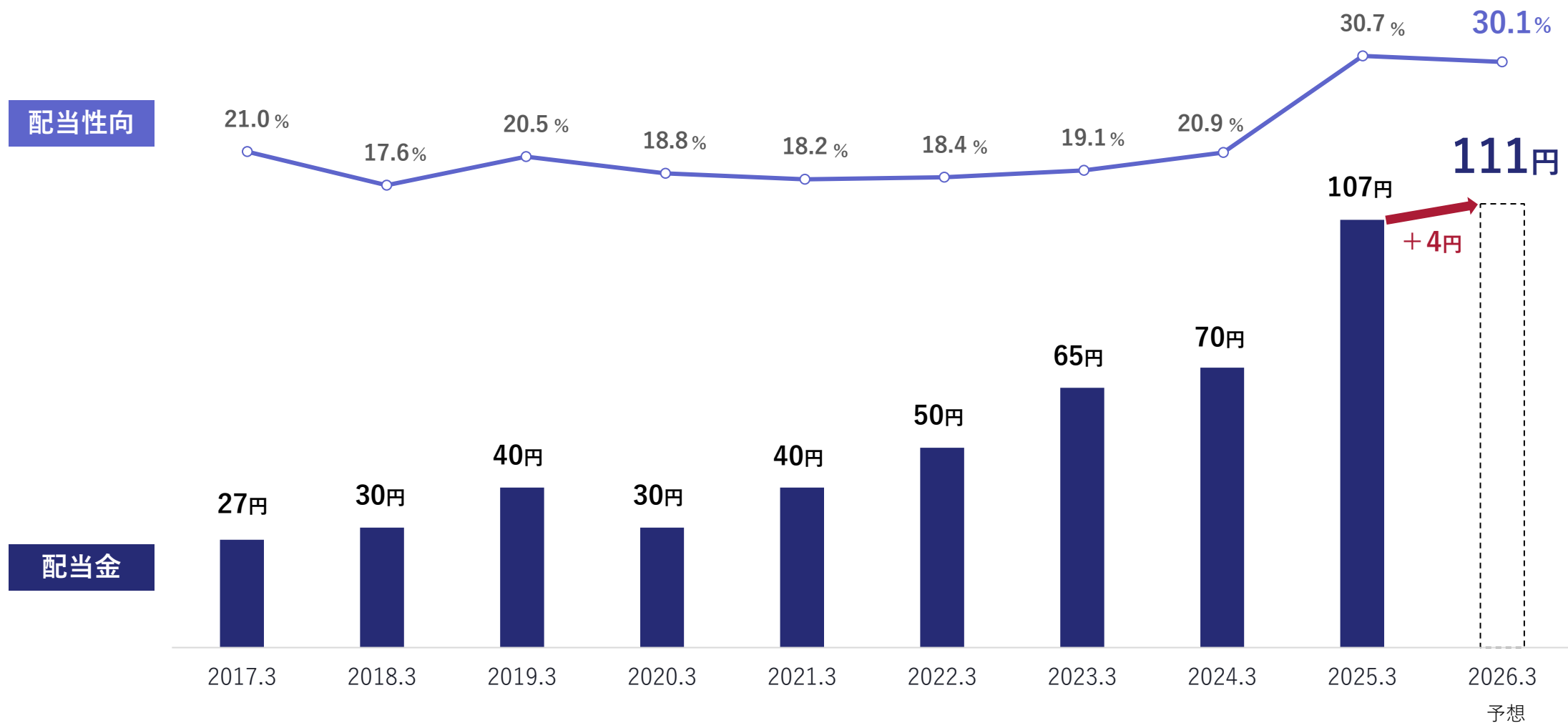
https://www.gltechno.co.jp/ir/library/haggb00000003vs-att/20250430_1.pdf

単位：百万円		2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期予想	前期比	
				増減率	増減額
分析機器事業	売上高	19,965	20,500	+2.7%	+534
	営業利益	2,045	2,050	+0.2%	+4
	営業利益率	10.2%	10.0%	-	▲0.2pt
半導体事業	売上高	21,313	22,000	+3.2%	+686
	営業利益	4,167	4,470	+7.3%	+302
	営業利益率	19.6%	20.3%	-	+0.7pt
自動認識事業	売上高	1,982	2,200	+11.0%	+217
	営業利益	115	140	+21.6%	+24
	営業利益率	5.8%	6.4%	-	+0.6pt

分析機器事業と自動認識事業における営業利益の進捗率は低いものの、全体としては概ね例年通りに推移



目標である配当性向30%を維持、2026年3月期は4円増配の見込み



05. APPENDIX

会社名 ジーエルテクノホールディングス株式会社

設立 2024年10月1日

代表取締役社長 長見 善博

本社所在地 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号

資本金 300,000千円

連結従業員数 1,192名（2025年3月31日現在、パートタイマーを除く）

連結売上高 43,261百万円（2025年3月期）



[ミッション]

存在意義

人と社会の可能性を触発する

ジーエルテクノグループは、創業当初より「信頼し合える仲間が集まり、人がこの世に生まれた意義を追求すること」を根本精神としており、組織の成り立ち自体が、人がもつ可能性を触発する挑戦でもあったといえます。自らの成長のみならず、産業や社会の発展の可能性をも触発する存在でありたい。その思いは今も変わることはありません。私たちは創業の理念を受け継ぎ、その使命に向かって挑戦し続けます。

[ビジョン]

将来目指す理想の姿

枠にとらわれない自由な価値創造に挑戦する

ジーエルテクノグループは、創業より半世紀を超える歩みを重ねてきましたが、前例や既成の事業領域に縛られることなく、グループを構成する一人ひとりが自身で思考しながら、新しい価値創造に取り組んでいきます。

[コーポレートメッセージ]

企業メッセージ

Search for a Way

次のイノベーションのそばに。

お客様のために、社会のために。そして自分たちの成長に向けて、常によりよい手段・手法を探し続けていきます。いつの時代も科学の発展と人々の暮らしを支え、社会に貢献していきます。

経営統合により成長機会を捉え、投資判断スピードを加速。さらなる企業価値向上を目指します。

GLT GLTECHNO HOLDINGS (2024年10月設立)

経営効率の向上

最適な経営資源配分

意思決定の迅速化

ジーエルサイエンス株式会社

(1968年設立)

分析機器事業

クロマトグラフィーの技術であらゆる分析を支える

分析装置とカラムなど消耗品の企画・開発から販売・サポートまで一貫対応し、多様な産業の成分分析を幅広く支えています。



クロマトグラフィー関連消耗品



ガスクロマトグラフ 試料前処理装置



テクノクオーツ株式会社

(1976年設立)

半導体事業

最先端の加工技術で世界の半導体製造を支える

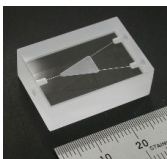
半導体製造装置向け高純度石英ガラスと結晶シリコンパーツの製造販売を主力に、高品質なモノづくりに取り組んでいます。



機械加工



火炎加工



拡散接合



シリコン加工

ジーエルソリューションズ株式会社

(2013年設立)

自動認識事業

非接触ICカード技術でより快適な社会を実現する

非接触でICタグを読み書きする自動認識技術（RFID）のパイオニアとして、先端技術を駆使し情報化社会の進化に貢献しています。



機器組込型リーダライタ

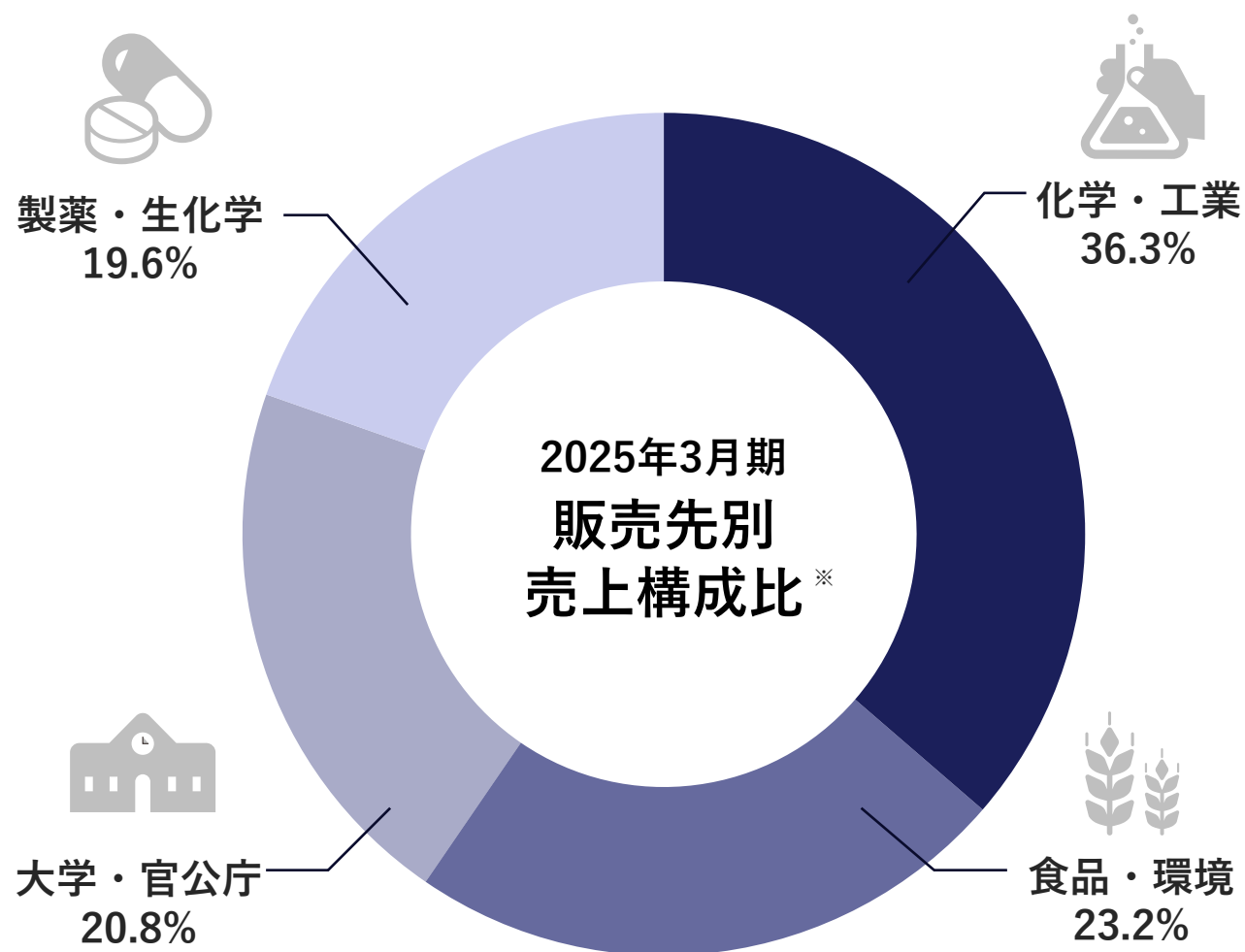


壁付型リーダライタ



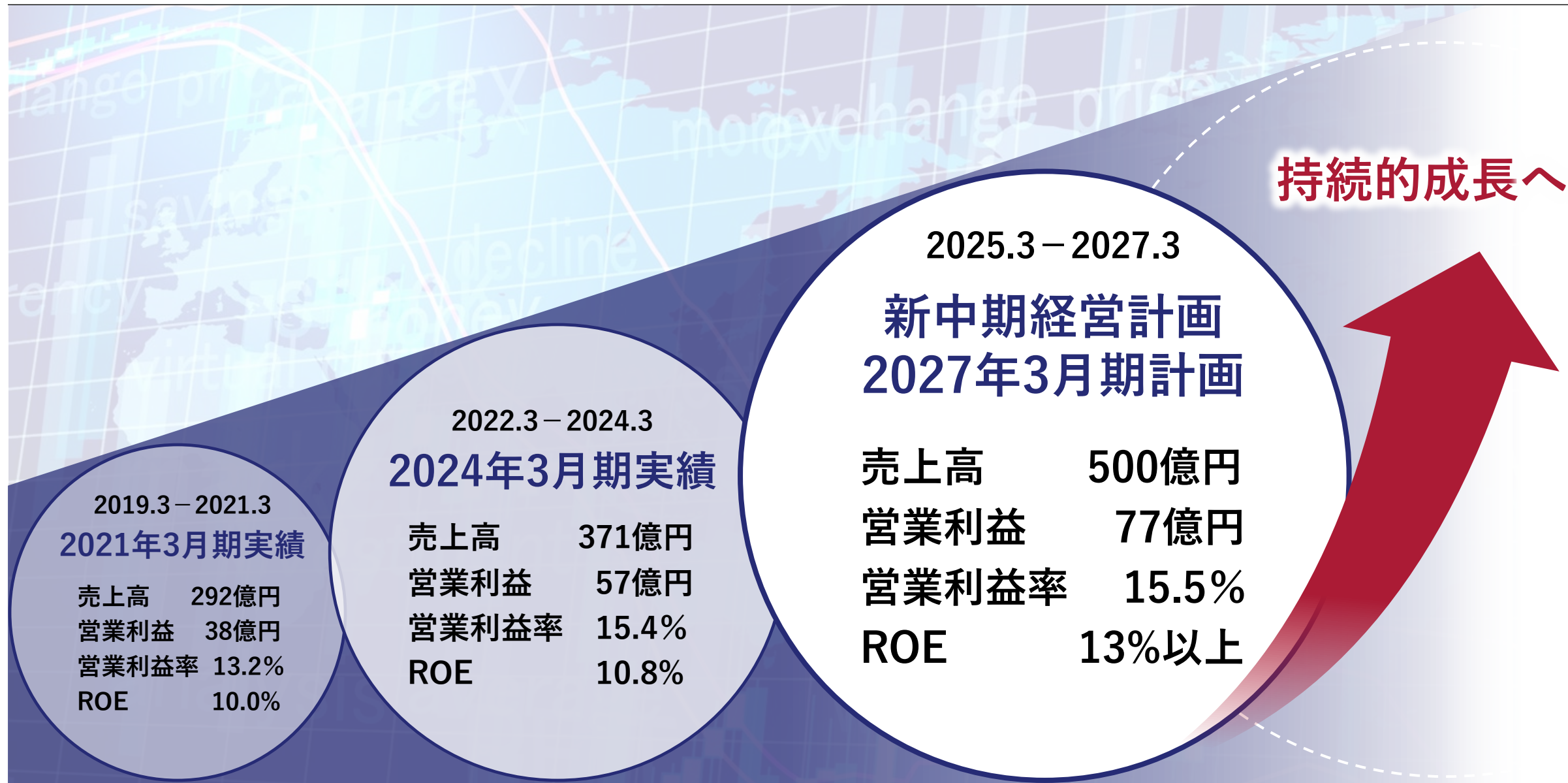
鍵管理ボックス

当社の安定的成長を支える分析機器事業は、幅広い分野で社会に貢献



多種多様な顧客基盤





NETWORK 世界に広がるグループネットワーク

ジーエルテクノホールディングス株式会社

ジーエルサイエンス株式会社

東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
設立 1968年2月

株式会社フロム

株式会社グロース

技尔（上海）商贸有限公司

GL Sciences B.V.

GL Sciences, Inc.

テクノクォーツ株式会社

東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー12F
設立 1976年10月

アイシンテック株式会社

杭州泰谷諾石英有限公司

GL TECHNO America, Inc.

TECHNO QUARTZ VIETNAM CO., LTD.

ジーエルソリューションズ株式会社

東京都台東区松が谷1-3-5 上野イーストビルG1
設立 2013年4月



基本理念

ジーエルテクノホールディングスは、『真に社会性のある企業への成長』という「企業理念」のもと、社員が働くことへの幸せを感じる環境作り、持続的企業発展のための創造や挑戦、製造改善や新技術による環境問題への取組を通じた社会貢献を行っています。また、得られた利益は「会社・株主・社員・社会」に公正に分配し、技術や利益をもって「地球と社会の持続可能な発展」へと貢献します。『道は一つ、共に進もう』を永久スローガンとし、ステークホルダーと共に社会課題解決に取り組んでいきます。

基本方針

①持続的な企業価値の向上

変わり続ける事業環境の中で、レジリエンスを高め柔軟に対応することで、競争力および生産性の向上を実現します。

②環境保全への貢献

気候変動への対応、循環型社会への取組など、ステークホルダーとの協働・共創を推進し、より良い未来の実現を目指します。

③事業を通じた社会課題の解決

本業の活動を通じて、社会貢献を持続的に推進します。

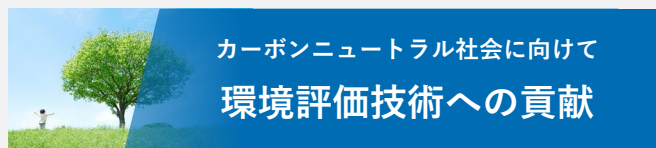
④企業活動を支える人材の育成と活躍の推進

お客様の課題解決のために挑戦を続け、社会に貢献できる人材を育成しやりがいと誇りをもって安全・健康に働くことができる環境を提供します。

⑤ガバナンス体制の強化

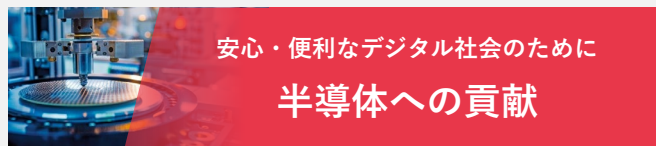
法令をはじめとした社会のルールを遵守するだけでなく、すべてのステークホルダーからの期待に応えるよう努めます。

製品・サービスの提供を通して、 健康で安全・安心な暮らしを支えます。



カーボンニュートラル社会に向けて 環境評価技術への貢献

次世代エネルギーやカーボンニュートラルの分野では、研究の成果を評価したり、エネルギー効率を判定するために、水素やアンモニアなどの分析が必要となります。ジーエルサイエンス株式会社は、お客様のニーズに応じたオーダーメイドの特注装置を開発・製造・販売することで、カーボンニュートラルな社会の実現に貢献しています。



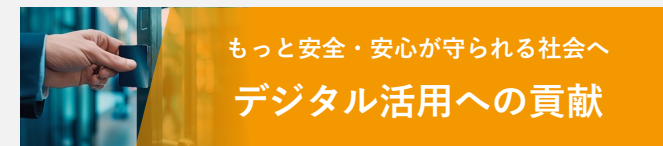
安心・便利なデジタル社会のために 半導体への貢献

半導体はインフラ整備や安全保障にも大きく貢献しており、私たちの生活に欠かせない存在です。その半導体製造装置の部材には、熱に強く薬品に侵されにくい素材が使われています。テクノクオーツ株式会社は、加工が難しい素材を、高い精度で加工した部材を提供することで、安心・便利な社会の実現に貢献しています。



より健康に生活できる社会に向けて PFAS分析への貢献

有機フッ素化合物(PFAS)は、フッ素系の撥水剤、防水剤、グリースなどに使われており、分解されにくく環境中に長く残ると言われている物質です。ジーエルサイエンス株式会社は、水道水、飲料水、排水、食品中のPFAS分析に関する製品・サービスを提供することで、健康で安心な社会に貢献しています。



もっと安全・安心が守られる社会へ デジタル活用への貢献

マイナンバーカードは、身分証明書として使えるだけでなく、自治体サービスやe-Taxなどの電子申請にも利用できるカードです。ジーエルソリューションズ株式会社は、電子申請や健康保険証利用時にデータを読み込む機器を提供することで、安全で便利なデータ共有ができる社会の実現に貢献しています。

Search for a Way

次のイノベーションのそばに。



ジーエルテクノホールディングス株式会社
〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1
TEL : 03-4212-6677
URL : <https://www.gltechno.co.jp>

免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権は、ジーエルテクノホールディングス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。